

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 035	提案機関名 JA全農かながわ 畜産部
要望問題名 紫外線照射装置による鶏舎の衛生対策及び生産性の向上への有効性について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 毎年、秋以降鳥インフルエンザ等の疾病が大きな問題となり、養鶏場にとっては大きなリスクとなっている。また、ウィルスや細菌が原因となる疾病を予防することで、生産性の向上を図ることができる。その予防紫外線照射装置が有効であると考えられるが、まだ十分なデータが得られていないことから、貴所にてその効果検証を実施して頂きたい。また、県内生産農場の規模でも、費用対効果が得られるかも併せて考察頂きたい。 検証内容 ① 紫外線照射により、鶏舎内の空気中の細菌類がどれくらい減少するのか。 ② 鶏舎の規模に対して対象機材を何台設置すると効果的に細菌類を減少させられるのか。 ③ 導入した場合としない場合で採卵数に有意差が出るのか。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 ※対象機材に関する情報は、下記URLを参照 畜産業におけるワンヘルスの実現を目指す実証実験を開始 ～紫外線水平照射技術「n-UV技術」により、鶏舎の空気環境改善を検証～ - エアロシールド株式会社	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等 エアロシールド株式会社に確認したところ、畜産業の現場における有効性や可能性を検証するため、ブローラー農場にて実証試験を行い、紫外線照射装置の有効範囲や、生産性への影響を検証しています。しかし、採卵鶏においては、鶏舎の構造上の問題や生産性の評価が難しいことから、実証試験は実施されていませんでした。 当所のような研究施設では、舎内環境が比較的クリーンで飼養羽数が少ないため、空気中の浮遊微生物による採卵鶏への影響は限定的であり、紫外線照射装置の効果検証は困難であると考えられます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			